

令和2年度 「学校経営計画に対する」最終評価報告書

石川県立小松明峰高等学校 (No.1)

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）・後期に向けて	
<p>(1) 3年間を見通した指導計画のもと、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業実践、家庭学習の充実を通して、生徒個々に応じた進路実現をめざす。</p>	①	生徒による授業評価や教職員相互の授業参観をもとにして、学力向上につなげる授業を充実させる。	教務課	「満足度指標」 不断の授業改善により、生徒の学力を高め、生徒自身が「学力がついてきている」と実感できる割合を増やす。	生徒アンケートの「私は授業を通じて学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力）がついてきている」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答える生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	B	<ul style="list-style-type: none"> ・12月実施の生徒アンケートで、「当てはまる」と回答した生徒は40.2%（前期37.0%）、「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は47.3%（前期50.1%）、合計87.5%（前期87.2%）であった。 ・今後も本時の学習目標の提示や授業の振り返り等を毎時間徹底するよう取り組んでいく。
	②	「予習→授業→復習」の学習サイクルの定着を通して、家庭学習の習慣化を図る。	教務課 各学年	「成果指標」 家庭学習が習慣化し、予習・復習にしっかりと取り組んでいる生徒の割合を増やす。	生徒アンケートの「私は予習や復習をして授業に臨んでいる（国数英3教科）」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答える生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C	<ul style="list-style-type: none"> ・12月実施の生徒アンケートで、「当てはまる」と回答した生徒は35.8%（前期35.4%）、「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は37.0%（前期39.4%）、合計72.8%（前期74.8%）であった。 ・予習や復習したことが授業に活かされるように今後も継続していく。
	③	ICT機器等を活用し、板書や説明にかかる時間を縮減することにより、生徒が思考する時間を確保する。	教務課	「努力指標」 授業の始めに本時の目標を明確に示し、授業の中心に「思考を深める時間」を確保する教員が増加する。	教員アンケートの「生徒が授業中に主体的に考えるようにし、思考を深める時間を確保している」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答える教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A	<ul style="list-style-type: none"> ・12月実施の教員アンケートで、「当てはまる」と回答した教員は38.0%（前期27.2%）、「ほぼ当てはまる」と回答した教員は60.0%（前期68.7%）で合計98.0%（前期95.9%）であった。 ・授業の中でペアやグループワークをさせるなど、的確な生徒への問いかけや声かけを教科会や互見授業を通して研修した結果、肯定的評価はさらに上がった。来年度に向けて取り組みを継続する。
	④	国公立大学一般入試に対応できる記述学力の向上を図り、難関大学や金沢大学および国公立大学への進路実現率を高める。	進路指導課 3学年	「成果指標」 難関大学、金沢大学及び国公立大学の現役合格者数が増加する。	国公立大学の現役合格者数 うち難関大・金大 A：100人以上 A：20人以上 B：90人以上 B：15人以上 C：80人以上 C：10人以上 D：80人未満 D：10人未満	C	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学入試の合格者数は86名であった。（昨年度国公立合格者数は92名） ・難関大学や金沢大学の合格は大阪大学に1人、金沢大学に4人（昨年度は11人）であった。（3月31日現在）
学校関係者評価委員会の評価		・ICT機器も使用しながら、双方向の授業をも推進していることが凄い。					
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		・学習アプリを活用した。そのアプリの使用用途を明確にすることで混乱なくできた。各生徒の解答をカードで提出させ、担当教員が添削して返す。授業動画を録画したものをカードにして復習や予習に使用する。生徒個々に応じた深い学びにつながっている。また、入試問題も近年変化してきて、多くの教科で、生徒の話し合いの場面や、教師と生徒のやりとりなどを取り上げた文章題も増加して、その動向を注視し、今後の入試指導に活かしていく。					

令和2年度 「学校経営計画に対する」最終評価報告書

石川県立小松明峰高等学校 (No.2)

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）・後期に向けて
(2) 学業と部活動の両立をめざすとともに、急速に変化する社会に対応し、挑戦する勇気を持った、たくましく、しなやかな生徒の育成に努める。	① 文武両道を基本に、各部が年度当初に立てた目標を達成するよう努力する。	生徒課	「努力指標」 各部が効率的かつ効果的な練習を工夫し、成果をあげることができる。	教員アンケートの「年度当初に立てた目標が達成できた」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答えた部顧問の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B	<ul style="list-style-type: none"> ・12月実施の教員アンケートで、「当てはまる」と回答した教員は14.0%、「ほぼ当てはまる」と回答した教員は60.0%で合計74.0%であった。 ・例年実施されていた総体総文などの各大会が中止、または代替大会となった。新チームとしての目標を立てた。 ・顧問は来年度春季大会に向けた部活動計画を立て、それに従って実施している。
	② 重点目標にあるように「挑戦する勇気を持って」生徒が自主的に取り組むことができるよう、部活動と学校行事において生徒主体の運営を進めていく。	生徒課	「満足度指標」 本校の一員として、部活動や学校行事に積極的に取り組む生徒の割合を増やす。	生徒アンケートの「部活動や学校行事に積極的に取り組んでいる」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答えた生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	B	<ul style="list-style-type: none"> ・12月実施の生徒アンケートで、「当てはまる」と回答した生徒は47.3%（前期53.1%）、「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は37.7%（前期36.6%）で合計85.0%（前期89.7%）であった。 ・前期と比べて、やや肯定的回答は減少した。文化祭や修学旅行等の行事がなくなったことが原因とみている。来年度は各行事において生徒がより主体的になって計画や運営を行うようにしていきたい。
	③ 授業の最初と最後に統一した挨拶を行うことを徹底する。また、教員からの積極的な声かけにより、生徒が自発的に挨拶する学校の雰囲気づくりに努める。	生徒課	「成果指標」 指導の結果、積極的に丁寧な挨拶ができる生徒の割合を増やす。	生徒アンケートの「あなたは校舎内で自発的に挨拶をしていますか」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答えた生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	A	<ul style="list-style-type: none"> ・12月実施の生徒アンケートで、「当てはまる」と回答した生徒は53.7%（前期54.5%）、「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は37.8%（前期37.7%）で合計91.5%（前期92.2%）であった。 ・学校再開の日から今日まで「M-PRIDE」として1週間の目標を立て、「しっかり挨拶WEEK」などを実施した。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動や学校行事に積極的に取り組んでいる生徒、特に「当てはまる」を選んでいる生徒が多いことは評価できる。 ・廊下で出会った生徒は挨拶をしてくれた。素晴らしいことであると感じた。 					
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活、特に学校行事においては自主性を育むために、いろいろな活動にチャレンジさせたい。 ・学校再開の日から「M-PRIDE」として1週間の目標を立て、「しっかり挨拶WEEK」などを実施した。朝の玄関での健康観察時には、多数の教員が立ち、生徒を出迎えた。健康観察カードをFACE to FACEで生徒から渡してもらうことが良かった。今後も続けたい。 					

令和2年度 「学校経営計画に対する」 最終評価報告書

石川県立小松明峰高等学校

(No. 3)

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）・後期に向けて
<p>(3) 地域に根ざした活動や学校情報の発信を進めるとともに、学校業務の効率化を図り、保護者や地域に信頼され、必要とされる学校づくりを推進する。</p>	① いじめ防止基本方針に基づき、全職員の共通理解の下、いじめの未然防止や対応に取り組んでいる。	生徒課	「努力指標」 いじめの未然防止を基本に、早期発見・早期対応を心掛けている教員の割合が増加する。	教員アンケートの「いじめの未然防止を基本に、早期発見・早期対応を心掛けている」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答えた教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A	<ul style="list-style-type: none"> ・12月実施の教員アンケートで、「当てはまる」と回答した教員は62.0%(前期50.0%)、「ほぼ当てはまる」と回答した教員は36.0%(前期50.0%)で合計98.0%(前期100%)であった。 ・さらに意識を高めて「当てはまる」と回答する教員の割合を高めていかなければならない。
	② 地域でのボランティア活動を各学期に1回以上計画し、学校教育に対する地域の理解を得る。	総務課 生徒課	「努力指標」 ボランティア活動に参加する生徒の割合を増やし、地域社会の一員であるという意識を高める。	ボランティア活動に参加したことがあると答えた生徒の割合が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	B	<ul style="list-style-type: none"> ・12月実施の生徒アンケートで、「複数回参加した」と回答した生徒は39.4%(前期28.5%)、「一回参加した」と回答した生徒は29.9%(前期17.9%)で合計69.3%(前期46.4%)であった。 ・2学期中間試験最終日に部活動単位での学校周辺清掃ボランティア活動を行った。
	③ ホームページで本校の特色や教育活動の様子をタイムリーに発信するとともに、情報の速やかな更新とわかりやすいページ構成に努める。また、メール配信では必要な情報を遅延なく提供する。	総務課 企画情報課	「満足度指標」 学校の様々な情報発信に対して満足する保護者が増加する。	学校の情報発信に対して、満足していると答えた保護者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	B	<ul style="list-style-type: none"> ・12月実施の保護者アンケートで、「当てはまる」と回答した保護者は23.6%(前期27.6%)、「ほぼ当てはまる」と回答した保護者は66.3%(前期59.7%)で合計89.9%(前期87.3%)であった。 ・生徒の様々な活動をトップページの「明峰diary」で毎日更新している。1日平均1000アクセス。部活動のページを充実させていく。
	④ 教材の共有や各種会議の縮減、業務の平準化等の取組を通して、生徒と向き合う時間を十分に確保する。	教頭	「満足度指標」 限られた時間の中で、教材研究・授業準備や生徒と向き合う時間を十分に確保しつつ、これまでの働き方を見直す教職員が増加し、毎月の時間外勤務時間が80時間を超える教員が減少する。	教員アンケートの「教材研究・授業準備や生徒と向き合う時間を十分に確保しつつ、これまでの働き方を見直すことができたと感じる」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答えた教職員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	A	<ul style="list-style-type: none"> ・12月実施の教員アンケートで、「当てはまる」と回答した教員は20.0%(前期31.3%)、「ほぼ当てはまる」と回答した教員は62.0%(前期62.5%)で合計82.0%(前期93.8%)であった。 ・今後、教員自身が自分の働き方を振り返る機会を設定していきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページのアクセス数が毎日1000超えは凄い。 					
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の日々の活動を毎日更新している。この情報発信が生徒の自己肯定感や自己有用感を育み、さらに高みを目指す向上心につなげていくようにしていきたい。 					